

時代の様変わりを示すデータがある。自衛隊法 100 条では、自衛隊の訓練目的に適合する場合には、国、地方公共団体等の土木工事等を受託出来ることとされている。

かつては、全国各地の施設科部隊は、土木工事を相当数受託し、若い小隊長もその工事を通じて鍛えられもし、駐屯部隊と地域との相互理解・連携も深まり、参加部隊の土木技術も著しく向上したものである。

近年、民間の土木工事能力が著しく向上したこともあって、部外工事の実施件数が減少し、5 師団管内でも、平成時代に入った以降は、平成 6 年度から 4 年間にわたる厚岸町子野日公園駐車場造成工事のみである。

師団の旅団化改編もあり、現在までの部外工事の実績を纏めて貰ったので、その中から幾つかの話題を提供する。



(ハナツクの第二展望台上の部外工事記念碑：清野雄大一望千里と当時の師団長の揮毫)

① 昭和 29 年度から現在 (H15/7/31) までの総工事实績

部外工事受託件数は、466 件である。累計の作業隊力は、約 330 万人・日であり、現在の帯広市の人口の約 20 倍である。吃驚する位の作業隊力である。累計の施工土量は、550 万 m³であり、ダンプに換算すると約 310 万台相当の土量だ。

② 受託件数の推移

初受託は、帯広市緑ヶ丘小学校運動場整地工事であり、第 5 施設大隊が工事を 5 月から 6 月に掛けて担任した。爾来、4 年間は数件/年であったが、昭和 34 年から急激に増加し、年度最大受託件数は、昭和 36 年の 36 件である。昭和 34 年以降、昭和 52 年までの年度部外工事实施件数は 10 件を超えていたが、昭和 53 年以降一ケタ台と逐次に減少し、昭和 62 年の 1 件を最後に、爾後数年間は全くなかった。

久々の部外工事が、前述した厚岸町の子野日公園駐車場造成工事である。ある人の記憶によると、一年中部外工事ばかりと言うような年もあった。年に 30 件もある年などは多分そうなのだろう。

③ 市町村別の工事实施件数

460 件余の工事の内、管内 49 市町村別では、累計 20 件以上の市町村は、北見市、帯広市、美幌町、羅臼町、厚岸町、鹿追町 (多い順) であり、必要性がなかったのかどうかは不明だが、1 件とも実施していない町村は、5 町村である。管外における実施件数は、7 件である。

④ 工事種別状況

小・中・高等学校のグラウンド新設工事、民間業者が採算が取れないとして敬遠するような道路工事が圧倒的に多い。糠平、阿寒、日勝等のスキー場にかかる工事も何件かある。少し変わった工事としては、広尾町タニイソ海産干し場新設工事を70日間、述べ14,000人・日で実施している。

⑤ 部外工事エピソード集

部外工事に参加した隊員諸官から聞いた話を紹介しよう。

● 音更町十勝ヶ丘道路新設工事 45年9月

工事の宿泊先が十勝川温泉の「ホテル大平原」隣のプレハブたつ…たので、作業終了後は温泉街のホテル及び旅館の温泉に毎日入浴できた。山林の道路を砂利を積載したダンプで登るのは、大変きつかった。

* 参考： 第二展望台には、部外工事を記念する立派な碑が建立されている。

● 羅臼町春松中学校グラウンド造成工事 46年8月

慰労会の度に、一人一杯づつ出た花咲ガニの味が忘れられない。また、役場の人々が良く飲み連れて行ってくれた。岩盤地域であり、1目2回の爆破作業とブレカーによる破碎作業が主であり、非常に苦勞をした。

● 浦幌町南2丁目道路改良工事 46年10月

宿泊場所が青少年会館であったため、子供がよく遊びに来た。ダンプ作業が主で、しかも市街地内でもあり電線と子供に特に注意した工事であった。

● 東藻琴村道東9号線道路新設工事 47年8月

宿泊場所が山の中で、病院天幕を建て2段ベッドで寝た。また、ドラム缶風呂を作り入浴した思い出がある。火山灰地域であり、作業は容易であったが雨が降るとぬかるんで大変であった。

● 忠穎村総合グラウンド新設工事 49年4月

課業終了後、スナックにかわいいお姉さんがいたので良く飲みに行った。グラウンドに入れる火山灰の採取位置が遠く、1日平均160Kmも走行した記憶がある。

● 根室第3中学校造成工事 49年7月

プレハブ2階建ての住宅に住み、1Fは事務室、2Fは隊員居室であった。カニ・ビールの差し入れが多かった。工事先の炊事は、街の奥様達の調理した食事だった。

● 広尾町タニイソ海産干場新設造成工事 52年5月

地域住民も自衛隊を大歓迎してくれて、毎週のように差し入れ(カニ・魚介類等)をしてくれて元気が出た。黄金道路をダンプで走行するのだが、霧が濃いうえにワイパーが動かず前が見えなくなるため、中性洗剤の容器に水を入れておき、途中その水をフロントガラスにかけながら視界を確保した。

● 阿寒国設スキー場造成工事 56年5月

毎晩、阿寒湖畔の「あかちようちん」に飲みに行っていた。工事期間中は雨が多かった。中型ドーザを山の上に置いて作業を終了していたため、燃料補充は 2 日に一度、20 人がかりで約 1000m の距離を携行缶で運んでいた。

(参考：5 師団司令部施設科の資料 etc)